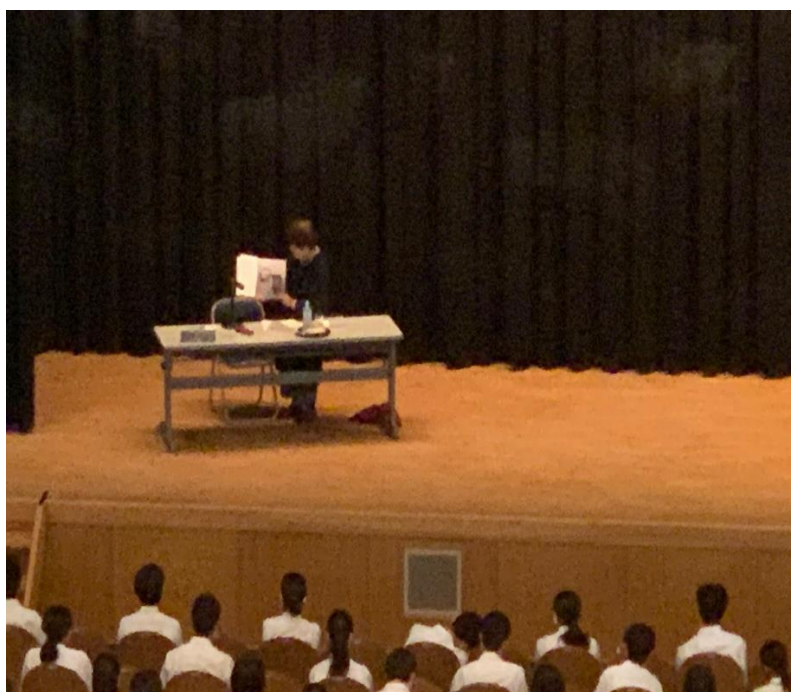
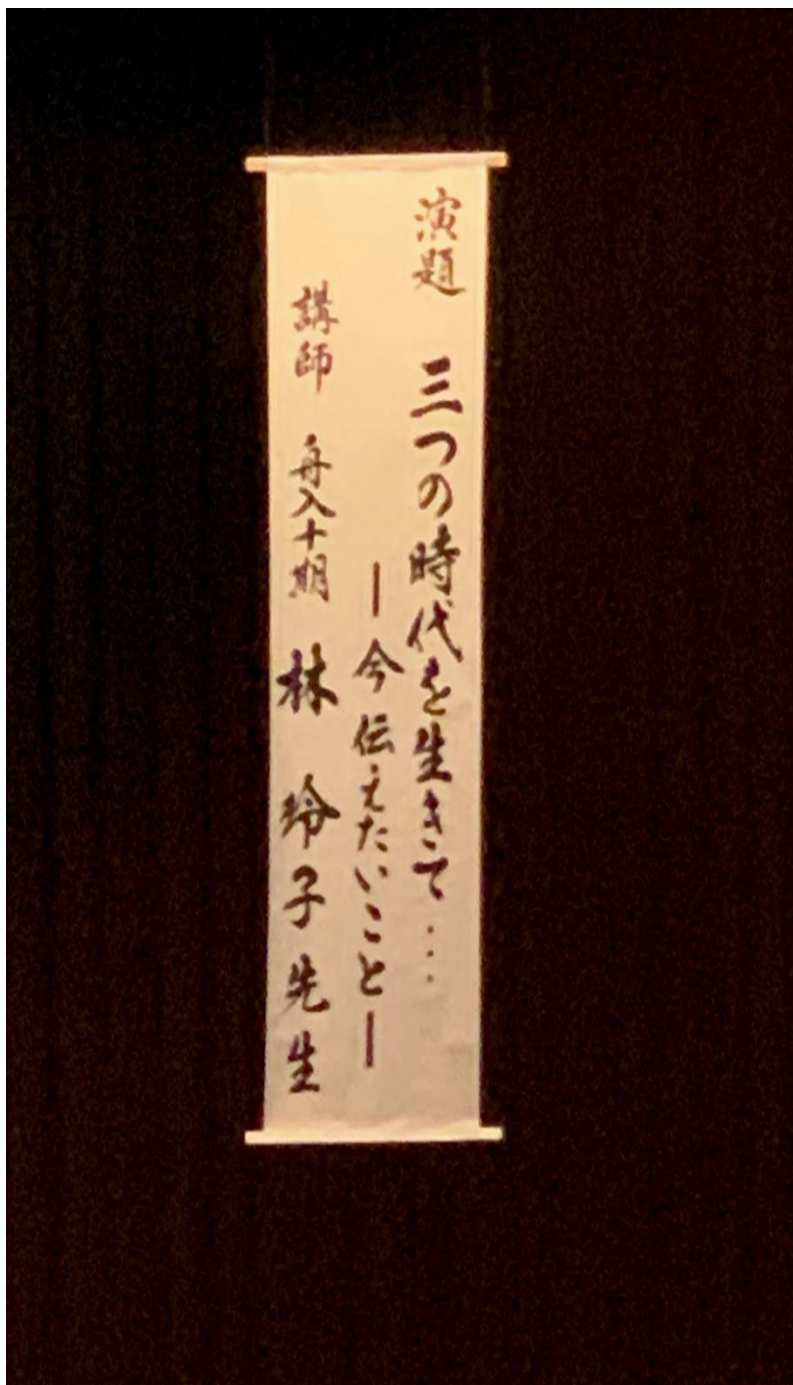


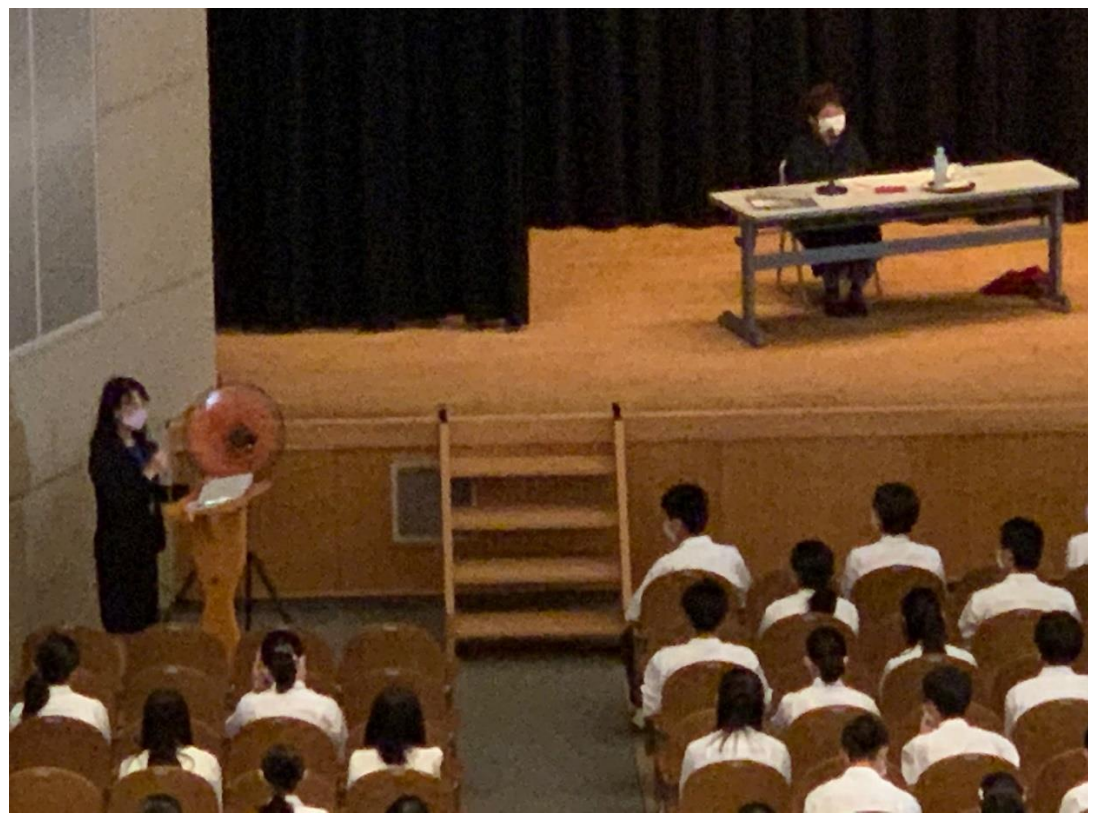
平和学習

市女と舟入の歴史から考える

三つの時代を生きて -今伝えたいこと-



原爆に関する絵本を2冊紹介していただきました。



平和とは希望と自由である

一学年平和学習の一環として、舟入10期生の林玲子先生のご講演を拝聴しました。林先生は被爆当時4才で、被爆直後の記憶は薄いと仰っていましたが、その後の生活や他の方の体験などを話してくださいました。

【生徒の感想】※一部抜粋

・ねっとりとした黒い雨や放射能によって苦しめられて、死んだ方が楽になると思っても、家族のために踏みとどまったという話から、苦しい時に誰かがいるということは良いことだと、改めて思いました。

・今日のお話を聞いて、この平和は当たり前ものではないと感じた。私たちはなんの不自由もなく毎日登校して、勉強することができる。友達と別れるときも「生きていたら」などと考えてはいない。これが「普通」で当たり前だと思っていたが、一瞬でこの「普通」が壊れた時代を生きただけの方にとって、「普通」が一番幸せで尊いものなんだと実感した。また、私たちが「普通」の日常を送れることも幸せなことだと改めて思った。

・「悲惨な過去があって今がある」という言葉が印象に残った。今の平和な生活が当たり前ではなく、一日一日を大切に生きていこうと思いました。

・原爆直後、家族の安否情報が分からず、突然遺骨と向き合わなくてはいけない家族の苦しさや悲しさは、はかり知れないと思った。美しい広島街が一瞬にして火に包まれ、景色が一変したことを想像すると、無力感に襲われるだろうと思った。そこから生きるためにとにかく一生懸命に家事や育児に励んだ林先生は本当に強い方だと思った。